

SU-35 の対中輸出が順調

漢和防務評論 20180306(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアの SU-35 の対中輸出は政治的な追い風もあり、順調に進んでいるようです。

中国での配備先はスホーイ戦闘機の遂溪基地になりました。中国は SU-35 のライセンス生産を求めるようです。

中露の間では、SU-27 の複製問題等を含め過去にトラブルが発生していますが、現在のロシアをめぐる情勢は厳しく、中国に頼るしかない状況です。

KDR モスクワ特電：

ロシア軍事工業界の権威筋は KDR に次のように述べた：2017 年にすでに中国に対し第 2 グループの SU-35 を提供した。通常、数機を 1 個グループとして提供する。第 3 グループもまもなく中国空軍に提供される、と。

第1、第 2 グループの SU-35 は遂溪基地（広東省）の中国空軍第 2 戦闘機師団に配備された。このことは、少なくとも現在第 2 師団はすでに X 機の SU-35 を獲得したこと意味する。（注：機数は公表しないことになっている）また若干の最新型ミサイルが同時に提供された。モスクワの軍事工業界の消息筋は次のように述べた：中国空軍は第 2 グループの SU-35 の輸出契約の締結を急いでいた。中国は獲得した第一グループの SU-35 の試験を積極実施中である、と。

中国側は、国産化を極めて重視しており、その計画案をまもなく提出するであろう。中国は、SU-35 の一部のサブシステムのライセンス生産を希望している。ロシアの若干の軍事工業界の指導者は、SU-35 の対中輸出問題に関して詳しい説明を避けた。米国は、”対露禁輸政策”によって、ロシアと軍事協力契約に署名し、ロシア製武器を輸入する国家及び企業を敵視し、或いは制裁を加えることをロシアは気付いていた。ロシア軍事工業界の指導者たちが、ロシアの対外武器輸出契約に関して、公の場で話題にしなくなった理由がここにある。対中輸出に関しては、中国からの求めに応じ、ロシアは従来から協力の内容を公表しなかった。

ロシア軍事工業界の権威筋は KDR だけに次のように述べた：SU-35 の対中輸出問題に関しては、すべての協力事業が契約に基づいて計画通り行われている。輸出業務は 2019 年には完了する。中国は、第 1 グループの SU-35 の性能に関して満足している、と。

以上